

厚生文教常任委員会報告事項資料

資料番号	資料名	所管課
1	芸術文化創造センター整備について	文化政策課
2	旧社会福祉センター跡地利活用の方向性について	福祉政策課
3	介護予防・日常生活支援総合事業への移行について	高齢介護課
4	平成28年度使用 中学校教科用図書採択結果について	教育指導課
5	平成28年度における下中幼稚園の保育機能充実策の実施内容について	

平成27年 9 月 8 日

芸術文化創造センター整備について

1 平成27年度整備推進委員会について

(1) 整備推進委員会委員

区分（専門分野）	氏名	所属等	専門分科会	
			建設 計画	管理 運営
施設設計（建築学） 都市計画（環境デザイン）	【委員長】 仙田 満	東京工業大学名誉教授 (株)環境デザイン研究所会長	◎	
施設設計（建築計画）	勝又 英明	東京都市大学教授	○	
文化政策（アートマネジメント）	桧森 隆一	北陸大学副学長	○	○
舞台設備（舞台音響）	市来 邦比古	日本舞台音響家協会副理事長	○	○
管理運営（劇場運営） 舞台設備（舞台照明）	桑谷 哲男	座・高円寺館長		○
管理運営（展示系施設運営）	三ツ山 一志	横浜市民ギャラリー主席エ デュケーター	○	○
管理運営（劇場運営）	【副委員長】 井上 允	元厚木市文化会館館長		◎
管理運営（音楽事業系）	梶 奈生子	東京文化会館事業企画課長		○

◎：専門分科会長

(2) 整備推進委員会の開催結果

名称	日時	場所	傍聴者数
第1回整備推進委員会	平成27年8月30日（日） 午後6時から午後8時15分まで	市民会館 第7会議室	3名

2 平成27年度現場見学会の開催結果について

名称	日時	場所	参加者数
第1回現場見学会	平成27年6月27日（土） 午後2時から午後5時まで	市民会館及び 計画地	11名

3 平成27年度ソフト事業（文化セミナー）の開催結果について

名称	日時	場所	参加者数
第7回文化セミナー 「現代アートと“まち”の未来」 （講師：中野仁詞氏）	平成27年7月19日（日） 午後2時から午後4時30分まで	市民会館 第3会議室	40名

4 建設工事の入札結果について

(1) 開札執行日

平成27年7月23日(木)

(2) 予定価格

7,297,486,560円(税込み) 【6,756,932,000円(税抜き)】

(3) 入札状況

入札者氏名	第1回	第2回
鉄建建設(株)	9,443,520,000円(税込み) 【8,744,000,000円(税抜き)】	9,388,440,000円(税込み) 【8,693,000,000円(税抜き)】

(4) 入札結果

不調(予定価格超過)

5 今後の対応について

直ちに増額しての再入札はせず、市民や専門家等と議論を重ねて、今年中を目途に次の選択肢から最適な結論を出すこととする。

(1) 延期

早くとも東京オリンピック後まで建設を延期する。

(2) 設計見直し

設計を大幅に見直し、現行予算内に収めるよう再設計を行う。

(3) 分割工事

機能を大幅に割愛(小ホールを分離)して整備する。割愛機能は将来の2期工事とする。

(4) 事業提案

公募型プロポーザルを実施して、民間企業から広く事業提案を募集し、現行予算内で機能を維持して整備する。

6 意見交換会の開催予定について

名称	日時	場所
第1回意見交換会	平成27年9月19日(土) 午後2時から午後5時まで	市役所 大会議室

旧社会福祉センター跡地利活用の方向性について

1 旧社会福祉センター跡地

- (1) 所在地 小田原市城山二丁目422番5及び427番2
- (2) 面積 1,861.27㎡(公簿面積)
- (3) 財産の種類 普通財産
- (4) 用途地域等 第2種住居地域(建ぺい率60%、容積率200%)
第2種高度地域(建築物の高さの最高限度15m)
- (5) その他 建物解体撤去後も地下に杭基礎及び地下室(客土で埋戻し)が存置

2 産婦人科医師からの跡地利活用の提案

- (1) 内容 同跡地を借受け(定期借地)、出産分娩を取扱う産婦人科医院を開設
- (2) 規模等 建物延床面積 約450坪
構造 木造2階
ベッド数 概ね15床

3 跡地利活用の方向性

出産分娩の現状等を踏まえて検討した結果、次のとおりとする

- ①定期借地権(賃借権)を設定し、貸付
- ②貸付期間は30年以上50年未満
- ③賃料は不動産鑑定を踏まえ設定

出産分娩の現状等

(1) 出産分娩の現状

出産分娩を取扱う医療機関の減少により出産分娩に制約が出ている

近隣：本年2月に秦野赤十字病院が取扱いを休止

市内：昨年度からよう産婦人科クリニックが取扱い廃止

本年1月以降市立病院では里帰り分娩の受入れを休止

(2) 総合計画等

①総合計画

まちづくりの目標の一つに「いのちを大切にす小田原」

②総合戦略

基本目標の一つに「子どもを産み育てやすい環境をつくる」

総合戦略有識者会議メンバーからも「産婦人科医師・病院の拡充」の提案

介護予防・日常生活支援総合事業への移行について

1 介護予防・日常生活支援総合事業について

介護予防・日常生活支援総合事業（以下「総合事業」という。）は、市町村が中心となって、地域の実情に応じて、従来の全国一律の介護予防訪問介護及び介護予防通所介護を市町村の実施する総合事業に移行するものである。この総合事業は、基準を緩和した廉価なサービスや住民等が提供するサービスなどが総合的に提供可能な仕組みに見直された。

平成27年4月の介護保険制度改正により創設され、平成29年4月には、すべての市町村が移行することとされている。

2 小田原市の移行時期について

国は、総合事業について早期移行を促しており、総合事業の実施によって多様なサービスが提供されれば利用者の選択肢が広がること、廉価なサービスが提供されることで利用者の自己負担額も軽減されることなどから、より早期の移行を企図し、移行時期を平成28年1月とした。

3 今後の予定

平成27年9月 条例案パブリックコメント実施

平成27年12月 条例案、補正予算案議会上程

平成28年1月 介護予防・日常生活支援総合事業へ移行

※この間、介護予防・日常生活支援総合事業への移行に係る周知（市民向け、介護事業者向け）を実施。

小田原市における総合事業の移行時事業メニューについて（概要）

I. 予防給付型

【内容】身体介護(排せつ・食事の介助など)と生活援助(掃除などの日常生活上の世話)

【基準】介護予防訪問介護及び介護予防通所介護と同じ基準による内容のサービス。

【サービス提供主体】介護事業所。訪問介護員等が提供。

【費用】介護予防訪問介護及び介護予防通所介護と同じ。

II. 生活支援型

【内容】生活援助のみを提供し、身体介護は提供しない。

【基準】「I. 予防給付型」の基準を緩和したサービス。

＜緩和する基準の例＞

- 市が実施する研修を修了すればサービスを提供できる。
- 静養室や相談室の設置を求めない。

【サービス提供主体】介護事業所等。市が実施する研修の修了者等を雇用して提供。

【費用】「I. 予防給付型」より廉価。

III. 住民主体型

【内容】生活援助のみを提供し、身体介護は提供しない。

【基準】「II. 生活支援型」をボランティア等が実施主体となるように設定し、さらに基準を緩和したサービス。

【サービス提供主体】ボランティア等。市が実施する研修の修了した住民等が提供。

【費用】「II. 生活支援型」より廉価。

平成 28 年度使用 中学校教科用図書の採択結果について

1 平成 28 年度使用中学校教科用図書について

	種 目	発 行 者	
		平成 28 年度使用教科書	平成 27 年度まで使用教科書
1	国 語	株式会社 三省堂	光村図書出版株式会社
2	国 語（書写）	光村図書出版株式会社	光村図書出版株式会社
3	社会（地理的分野）	株式会社 帝国書院	教育出版株式会社
4	社会（歴史的分野）	教育出版株式会社	教育出版株式会社
5	社会（公民的分野）	教育出版株式会社	東京書籍株式会社
6	社会（地図）	株式会社 帝国書院	株式会社 帝国書院
7	数 学	東京書籍株式会社	東京書籍株式会社
8	理 科	大日本図書株式会社	大日本図書株式会社
9	音 楽（一般）	株式会社 教育芸術社	教育出版株式会社
10	音 楽（器楽合奏）	株式会社 教育芸術社	教育出版株式会社
11	美 術	開隆堂出版株式会社	開隆堂出版株式会社
12	保健体育	株式会社 学研教育みらい	東京書籍株式会社
13	技術・家庭（技術分野）	東京書籍株式会社	教育図書株式会社
14	技術・家庭（家庭分野）	開隆堂出版株式会社	教育図書株式会社
15	英 語	開隆堂出版株式会社	東京書籍株式会社

平成28年度中学校教科用図書各種目の採択理由

種目	国語	発行者	株式会社 三省堂
<ul style="list-style-type: none"> 適切な脚注がついていたり、文章構成が図式化されて示されていたり、生徒の「読む力」を高めることについての支援が適切である。 芥川龍之介の「トロッコ」や歌舞伎の「外郎売（ういろうり）」の口上など、小田原にゆかりのある作品が取り上げられていて、生徒が親しみを感じられる。 幅広い読書へ誘う「私の本棚」「小さな図書館」のコーナーや、「情報探しのヒント」「情報活用のヒント」のコーナーにより、読書に親しむ態度の育成が図られるよう配慮されている。 全学年で共通して、巻頭に「話す・聞く」「書く」「読む」「言語」に関して、各単元で何を身に付けるのかははっきり示されている。 感想を交流させたり、情報を比較したり自分の考えをまとめる力がつくよう配慮された内容となっている。 			
種目	国語（書写）	発行者	光村図書出版株式会社
<ul style="list-style-type: none"> 3年間の学習を見通し、習得と活用を繰り返すことで、基礎・基本が定着できる構成になっている。「基礎編」「学習編」「資料編」の3部構成となっていることも生徒にとっては学習しやすいと思われる。 封筒の書き方の住所例が小田原市になっていて、生徒にとっても親近感が持てる。 毛筆の運筆について、強弱を「トン・スー・トン」という擬音語で表現していることや、筆圧の調整の仕方を「3の力、2の力、1の力」という数字で表しており、生徒が学びやすい工夫がされている。 芸術としての「書」と、実務的な「書道」、横書きの文字や電子メール等、「書くこと」についてバランスよい内容になっている。 			
種目	社会（地理的分野）	発行者	株式会社 帝国書院
<ul style="list-style-type: none"> 「様々な地域の調査」や「身近な地域の調査」で、資料の活用方法や、調査結果のまとめ方をしっかりと取り上げている。また調査のテーマ設定の視点が明確に例示されている。 様々な国で使われている日本の技術や、様々な国に伝わっている日本の文化について紹介されており、生徒が世界を身近に感じられると思われる。 各単元、見開き2ページの中で、学習課題を設定し、「説明をしよう」でまとめていく構成となっており、わかりやすい。 地形図の使い方やグラフの読み取り方を詳しく扱っており、生徒の基礎的・基本的な技能を高めるための支援が適切である。 			
種目	社会（歴史的分野）	発行者	教育出版株式会社
<ul style="list-style-type: none"> 巻頭の見開きに二宮尊徳の写真があり、言葉も紹介されている。また、北条氏の領国経営についても取り上げられており、地域の歴史について生徒が意欲的に学ぶことができる。 各章ごとに自分の言葉で自分の考えを述べる言語活動が設定されている。また「郷土の歴史を探ろう」のコーナーは、言語活動や体験活動の充実を図り、歴史を体験的にとらえられるようになっている。 小学校で学習したことの振り返りとして、小学校で学習した人物が紹介されている。小学校から中学校へ系統的に学べるよう工夫されている。 			
種目	社会（公民的分野）	発行者	教育出版株式会社
<ul style="list-style-type: none"> グラフや地図を読み取って社会の動きを考える「読み解こう」のコーナーは資料を読み取ったり考えを深めたりして、生徒が調べ学習に取り組みやすい内容である。 これからの情報化社会を生きていく生徒にとって必要となる「情報リテラシー」を早い段階で学ぶ構成となっており、評価できる。 社会的な課題と法令、ルールなど、学習内容の充実が図られている。「ユニバーサルデザインの街づくり」や「点字の仕組み」についてなど、生徒に伝えたい内容も充実している。 			

種 目	社会 (地図)	発行者	株式会社 帝国書院
<ul style="list-style-type: none"> ・統計資料が新しく、3年間使う上で望ましい。 ・インデックスで「世界」「日本」「資料」と色分けされており、わかりやすい。 ・世界の地域図の次のページに、地域の資料というページがあり、そこに「日本と世界の結びつき」が図で示されている。世界の多くの国々に日本が輸出していることや、日本も多くの国々から輸入していることが理解でき、日本と世界の結びつきについて考えることができる。 ・環境問題や、食文化、各地域の言語などが取り上げられており、地図帳を通して他教科で学習したことがつなげることができ、生徒の学びを深められる。防災に関する内容も詳しい。 			
種 目	数学	発行者	東京書籍株式会社
<ul style="list-style-type: none"> ・練習問題が充実していて、各章に「基本の問題」「章の問題 A」「章の問題 B」と、繰り返し復習できる課題が用意されている。数学が得意ではない生徒にも学びやすい構成であると思われる。解説や学習のヒントもわかりやすく適切である。 ・数に興味を持たせる工夫が感じられた。また、グラフの読み取り方について、生徒が批判的な視点をもってグラフを読めるような内容となっており、これからの生徒に必要な視点であると考えられる。 ・「割引クーポン」「東京スカイツリー」など、社会的状況を反映させた題材が扱われており、生徒の関心を高める工夫をしている。 			
種 目	理科	発行者	大日本図書株式会社
<ul style="list-style-type: none"> ・実験・観察の目的がわかりやすい言葉で示されており、生徒が学ぶ目的を意識しやすい。また実験・観察のまとめ方やノートの取り方で大切にしたいこともわかりやすく示されている。 ・科学を学ぶ意義や持続可能な社会の形成につながる内容が取り扱われている。その他にも、体験を通して学ぶ内容が多い構成である。 ・写真が素晴らしく細部までわかりやすく、生徒の関心を高めることができる。 ・仮説から考察までのプロセスが順を追って進むようになっており、生徒の科学的思考の育成を図ることができるような構成となっている。 			
種 目	音楽 (一般)	発行者	株式会社 教育芸術社
<ul style="list-style-type: none"> ・各ページの曲名の上に、学習目標が明確に示されている。その次に、目標に沿った曲が紹介されている点が良い。注意点やヒントもわかりやすい。 ・音楽史が充実していて、音楽の歴史が詳しくまとめられている。音楽文化についても詳しくまとめられている。 ・「Let's Create!」では、日常で使われている言葉をリズムにするなど、生徒が作曲に取り組みやすい内容となっている。 ・生徒の好奇心を引き出せるような、基本的な内容から導入し、次第に細部にわたって説明がされていき内容を深めていく構成となっている。 			
種 目	音楽 (器楽合奏)	発行者	株式会社 教育芸術社
<ul style="list-style-type: none"> ・リコーダーの演奏について、Q&A などにより、わかりやすく生徒に興味をもたせるような工夫がされている。 ・和楽器の学習については、姿勢や礼儀などについて、日本の伝統文化を重んずる記述がある。各楽器の歴史、他の楽器との比較などもわかりやすく掲載されている。 ・創作活動においては、言語活動の充実が図られ、学習した知識を活用して確実に取り組めるような工夫がされている。 			

種 目	美術	発行者	開隆堂出版株式会社
<ul style="list-style-type: none"> ・表現と鑑賞の一体化を図る工夫がある。導入から展開、まとめまでの学習過程が鑑賞→表現→鑑賞という構成となっており、生徒が意欲的に表現活動に取り組める。 ・芸術作品を生活と結びつけて表して、教科で学習したことをいかして生活することにつながっていく。生活の中に美術があるという視点が多く盛り込まれている。 ・表現することの意義に着目し、作者が作品に込めたメッセージ等を多く取り上げている。美術を通して、人や社会を感じる内容になっている。 			
種 目	保健体育	発行者	株式会社 学研教育みらい
<ul style="list-style-type: none"> ・ページごとに学習目標が示されていて、生徒がわかりやすく学習できる。「ウォームアップ」で導入し、「エクササイズ」で確認、「活用しよう」で深化させ、章のまとめの「探求しようよ」で振り返るという学習の一連の流れがしっかりとつくられている。 ・学習したことや体験したことをもとに話し合ったり、また他者の意見をもとに話し合ったりするなど、協働、学び合いを大切にしている構成となっている。生徒自身が考え、話し合い、発表するという活動ができる内容となっている。 ・オリンピック憲章が掲載されている。スポーツを通じて文化と教育の融合について生徒に考えさせたのでよいと思われる。 ・中学校生活に必要な食事のとり方が掲載されている。集中力を上げたい時にとるメニューであったり、疲労回復の時のメニューであったり、実際の中学生が興味をもって学習できると思われる。 			
種 目	技術・家庭（技術分野）	発行者	東京書籍株式会社
<ul style="list-style-type: none"> ・生活に即した題材をとりあげており、ものづくりの楽しさが伝わってくる。「技術の匠」のコーナーでは働く人の視点からの話が掲載されている。技術の学びを将来につなげることができそうな内容である。 ・生徒の気づきや学びのきっかけを生み出すことができる構成となっている。問題解決的な学習ができるよう配慮されている。また、わかりやすく、体験的な学習や実践的な活動の導入ができる構成となっている。 ・4分野とも学習のまとめがしっかりできるようになっている。 ・レイアウトや全体の体裁がよい。 			
種 目	技術・家庭（家庭分野）	発行者	開隆堂出版株式会社
<ul style="list-style-type: none"> ・各章の終わりに「持続可能な社会をつくる」というページが設けられており、現代社会が抱えている課題を学習内容と関連させて、生徒に考えさせる構成となっている。災害への備えについても中学生の視点からわかりやすく取り上げられている。 ・写真が効果的に扱われており、見やすく、生徒が内容をイメージしやすい。 ・伝統文化に関する内容が充実しており、特に和服について詳しく取り扱われていることが評価できる。 			
種 目	英語	発行者	開隆堂出版株式会社
<ul style="list-style-type: none"> ・1年生の教科書には、アルファベット迷路や大文字・小文字つなぎゲーム等が掲載されていて、生徒が英語に親しむことができ、小学校の外国語活動を中学校の英語へとつなぐ工夫がされている。 ・辞書の引き方を丁寧に扱っている。他にもつまづきが多そうな内容について、丁寧に扱っている点が評価できる。 ・巻末に「英語でできるようになったことリスト」があり、学年ごとに4・9・12・3月にチェックを入れるようになっている。生徒が楽しく意欲的に取り組めるのではないと思われる。 			

2 平成27年度【平成28年度使用】中学校教科用図書採択までの経過

会議名	日時・場所	出席者	内容
教育委員会 定例会・協議会	4/30(木) 19:00～ 市役所601	教育委員	<ul style="list-style-type: none"> 採択に係る今後の予定 採択基本方針の決定
第1回小田原市教科用 図書採択検討部会	5/18(月) 15:30～ 合庁2G	採択検討部会員	<ul style="list-style-type: none"> 採択基本方針確認 調査研究の方向性や日程等の検討
第1回調査会	5/27(水) 13:30～ 合庁2E	採択検討部会長、 副部会長 各調査員46名 [下郡含む]	<ul style="list-style-type: none"> 調査員の委嘱 調査研究について
第2回・3回調査会	5/27(水)～ 6/30(月)の 間で2回		<ul style="list-style-type: none"> 調査員の都合で会場と日時を決定
第4回調査会	7/8(水) 13:30～ 合庁2E	採択検討部会長、 副部会長 各調査員46名 [下郡含む]	<ul style="list-style-type: none"> 調査研究報告書の作成 調査研究報告
教科書展示会	6月19日(金) ～7月8日(水) 9:00～17:00 合庁2階	一般市民・教員 教育委員会関係者	
第2回小田原市教科用 図書採択検討部会	7/15(水) 13:30～ 合庁2G	採択検討部会員 調査員代表13名	<ul style="list-style-type: none"> 調査研究報告 質疑及び協議
教育委員会臨時会	7/23(木) 19:00～ 市役所大会議室	教育委員	<ul style="list-style-type: none"> 採択理由の協議①
教育委員会定例会	7/28(火) 19:00～ 市役所大会議室	教育委員	<ul style="list-style-type: none"> 採択理由の協議②
教育委員会臨時会	8/4(火) 19:00～ 市役所大会議室	教育委員	<ul style="list-style-type: none"> 採択理由の協議③ 採択の決定

小田原市事務局 市川 嘉裕 教育指導課長
 菴原 晃 教職員担当課長
 石井美佐子 指導・相談担当課長

3 教科用図書採択方針

(1) 平成28年度使用教科書の採択について

- (ア) 小学校用教科書・中学校用教科書及び特別支援学校用教科書は、学校教育法附則第9条の規定による教科書を除き、「教科書目録（平成28年度使用）」に登載されている教科書のうちから採択すること。
- (イ) 小田原市教科用図書採択検討部会は教科書の採択についての協議の結果において、種目ごとの種類を絞り込むことなく、すべての調査研究の結果を報告すること。平成28年度使用中学校用教科書については、「中学校用教科書目録（平成28年度使用）」に登載されている教科書から採択する。なお、平成28年度使用小学校用教科書については、平成26年度に採択したものと同一の教科書を採択する。特別支援学級用教科書については、児童生徒の障がいの種類、能力、適正等をかんがみ、最もふさわしい内容のものを採択すること。
- (ウ) 小田原市教育委員会は、採択の公正確保に向けて、採択事務の円滑な遂行に支障をきたさない範囲で、採択にいたる経過、採択理由などを公開し、開かれた採択に努めるとともに、外部からの不当な働きかけ等により採択が歪められないよう、静ひつな採択環境を確保すること。

(2) 教科用図書採択基準

- (ア) 各発行者の「教科書編修趣意書」、県教育委員会の「調査研究の結果」等を踏まえ、学習指導要領に基づいて調査研究し、採択する。
- (イ) 採択権限を有する者の責任において、公明・適正を期し、採択する。
- (ウ) 学校、児童・生徒、地域等の特性を考慮して採択する。

平成28年度使用 中学校教科用図書 採択検討部会員 (6名)

No	所 属	氏 名	備 考
1	小田原市中学校長会	石井 政道	泉中学校長
2	小田原市中学校教育研究会	栗畑寿一郎	白鷺中学校長
3	小田原市中学校教員代表	渡井 悦子	鴨宮中学校総括教諭
4	小田原市中学校教員代表	成川 敏明	橘中学校総括教諭
5	小田原市PTA連絡協議会	大木 健一	会長
6	小田原市PTA連絡協議会	石原 稔	副会長

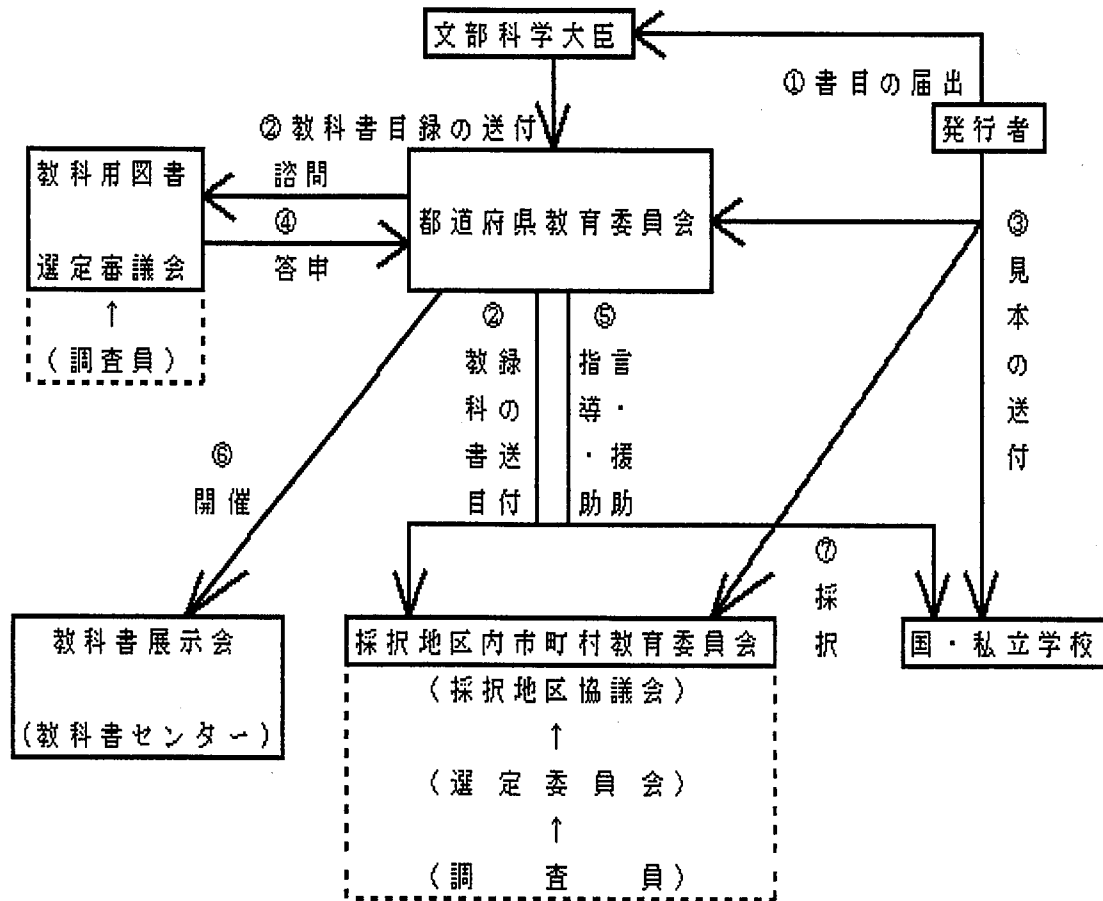
調査員 名簿 (小田原市33名、下郡13名)

教科等	調査員氏名 (学校名)			
国 語	住友啓子 (城南)	杉崎美穂 (鴨宮)	板井亜紀子 (酒匂)	木村久美子 (湯河原)
書 写	生垣麻美 (泉)	白石由美子 (城北)	廣川公二 (真鶴)	
地 理 地 図	美本大輔 (千代)	庄司由紀雄 (国府津)	永山健治 (城北)	砂川周平 (箱根)
歴 史	清水聡 (白山)	角野篤 (城南)	本多忠幸 (泉)	相田直巳 (湯河原)
公 民	大平章人 (城山)	相澤弘治 (白山)	加藤太一 (千代)	塩川貴広 (湯河原)
数 学	加藤直樹 (城山)	原田純志 (鴨宮)	西村直祥 (泉)	垣田淳 (湯河原)
理 科	村岡俊明 (鴨宮)	松澤文恵 (千代)	杉崎洋一 (酒匂)	鈴木昌弘 (真鶴)
音 楽	植田正 (白鷺)	村上晃一 (城北)	羽入田幸恵 (箱根)	
美 術	中島悌子 (酒匂)	石井久仁子 (橘)	駒川睦子 (箱根)	
保健体育	岩瀬多三恵 (千代)	伏見まり (橘)	高山尚克 (真鶴)	
技 術	池谷二郎 (白山)	渡邊仁 (国府津)	杉山一彦 (湯河原)	
家 庭	下田貴子 (城南)	米山由美子 (酒匂)	青木都 (真鶴)	
英 語	市川麻美 (白鷺)	奥津美香 (白山)	片倉孝裕 (国府津)	氏家ほずみ (箱根)

平成28年度使用小学校教科用図書一覧について

	種目	発行者
1	国語	学校図書株式会社
2	国語（書写）	光村図書出版株式会社
3	社会	光村図書出版株式会社
4	社会（地図）	株式会社 帝国書院
5	算数	株式会社 新興出版啓林館
6	理科	株式会社 新興出版啓林館
7	音楽	株式会社 教育芸術社
8	図画工作	日本文教出版株式会社
9	家庭	東京書籍株式会社
10	保健	株式会社 学研教育みらい
11	生活	学校図書株式会社

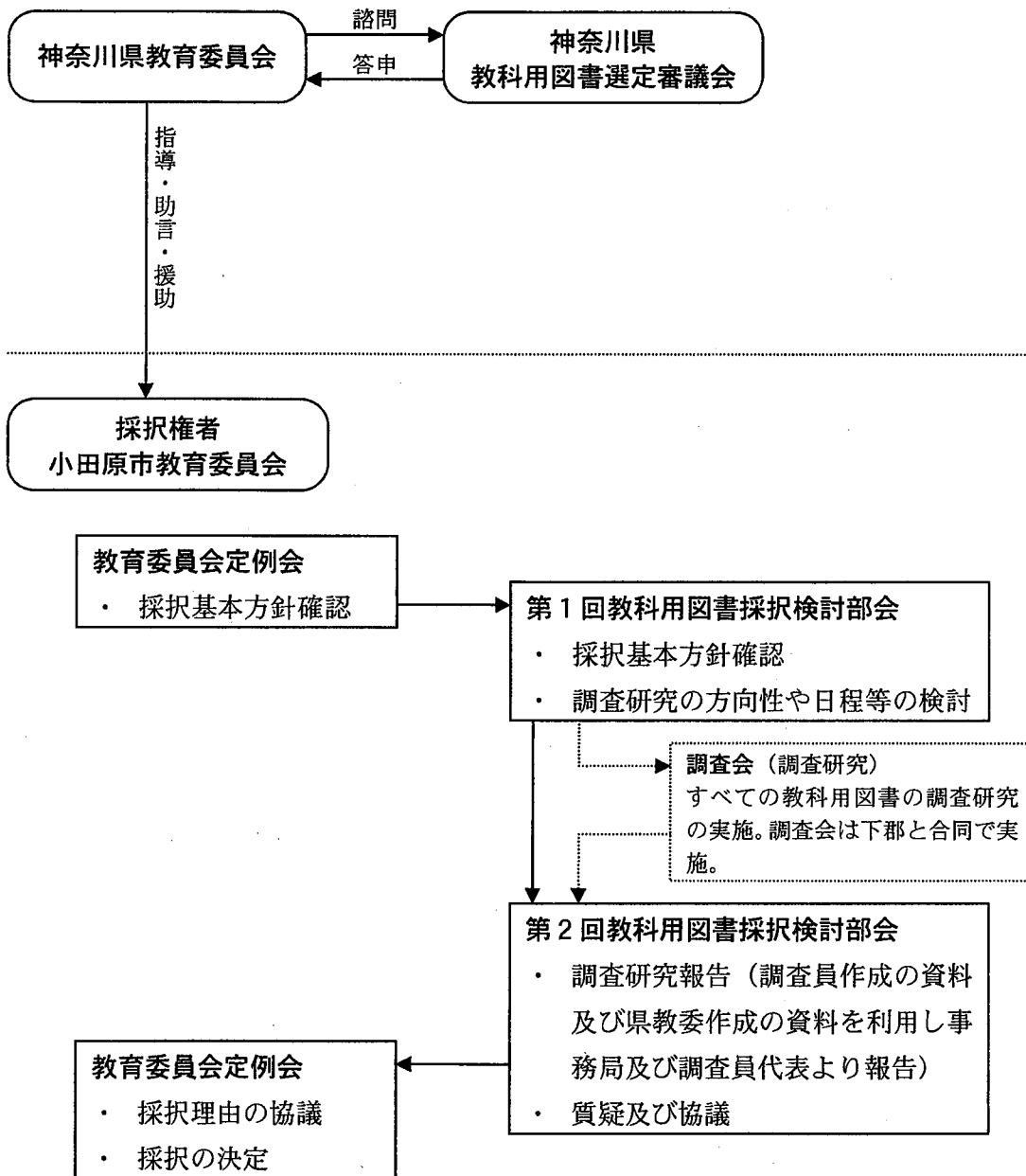
義務教育諸学校用教科書の採択の仕組み



主な根拠法令

- 採択の権限
 - 地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 23 条第 6 号
 - 教科書の発行に関する臨時措置法第 7 条第 1 項
- 採択の方法等、採択の時期
 - 地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 48 条
 - 義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律第 10 条、第 11 条、第 13 条、第 14 条、第 16 条、第 17 条
 - 義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律施行令第 8 条～第 11 条、第 13 条、第 14 条
 - 教科書の発行に関する臨時措置法第 4 条、第 5 条、第 6 条

平成 28 年度使用教科用図書採択までの流れ



平成28年度における下中幼稚園の保育機能充実策の実施内容について

1 実施内容

(1) 延長保育の実施

- ア 実施日 幼稚園授業日の月曜日から金曜日まで
- イ 実施時間 教育時間終了後（14時）から17時まで
- ウ 保育料 日額：200円
- エ 定員 20名程度

(2) 地域の子育て支援の充実

子ども・子育て支援新制度の目的の一つである「地域の子育て支援の充実」策の一環として、これまで実施している園庭開放や夏季休業中の登園日の拡充を検討する。

2 経緯

- 平成22年度～ 下中幼稚園の認定こども園化について、教育委員会と子ども青少年部で設置に向けた課題の整理など検討開始。
- 平成26年 8月 教育委員会定例会で「公立幼稚園の子ども・子育て支援新制度への移行について」の方針決定。
※方針では、平成28年度に下中幼稚園の認定こども園化を予定。
- 11月 今後の公立幼稚園あり方について内部検討開始。
- 12月 下中幼稚園の認定こども園化には、大規模な施設整備が必要となるなど課題も多いことから、現行施設での対応を基本として検討を進めることとした（市議会12月定例会一般質問で答弁）。
- 平成27年 5月 下中幼稚園の在園児保護者、及び下中地区0～2歳児の保護者に対し、下中幼稚園の保育機能充実に関するニーズ調査を実施。
- 7月 市長・副市長協議

3 判断理由

(1) ニーズ調査結果

- ア 3歳児保育について
 - 必要性を感じている保護者が多い一方で、利用については未定の保護者も多い。
 - 平成28年度に入園対象となる2歳児では11名の利用希望があったが、11名の中には既に保育所等に入園している子もおり、11名全てが入園するかは不確定である。
- イ 延長保育について
 - 在園児保護者の7割、0～2歳児保護者の5割が利用を希望しており、利用希望は高い。

ウ 預かり保育（夏季休業中の保育）について

- 在園児保護者の5割、0～2歳児保護者の4割が利用を希望しており、延長保育と比べると利用希望は低い。

(2) 費用対効果

ア 3歳児保育の実施

- 3歳児を受け入れた場合、正規職員や臨時職員の人件費に多額の経費を要することとなる。
- 3歳児を受け入れた場合の保育室の整備として、3歳児用の水廻りやトイレの改修、空調設備の設置などが必要となる。
- 給食提供の課題
 - 3歳児への給食提供にあたっては、食べやすさを考えた無理のない食材を利用した幼稚園用の献立（硬さ・大きさ）を考えるなどの対策が必要である。
 - そのためには、栄養士や委託調理員の確保、施設改修などに多額の経費を要することとなる。
 - 宅配サービスの利用や弁当の持参が考えられるが、給食が定着している中、保護者としては給食の提供が下中幼稚園を選択する理由の一つになると考える。
- ニーズ調査結果から想定される平成28年度の受入人数が10人前後であることや、事業の継続性を考慮すると、実施は難しい。

イ 延長保育の実施

- 現行施設での対応が可能である。
- 臨時職員の配置が必要となり、新たに人件費が発生する。
- 保育料に加え、新たな保護者負担が生じるが、酒匂幼稚園での実績もあり保護者の理解を得やすい。

ウ 預かり保育（夏季休業中の保育）の実施

- 夏季休業中は、橘学校給食共同調理場は休業となり、給食の提供ができない。
- 預かり保育を実施する場合は、ニーズ調査結果で利用希望がより高い延長保育も実施する必要がある。
- 夏季休業中も臨時職員の配置が必要となり、延長保育とは別に人件費が発生する。
- 保育料に加え、新たな保護者負担が生じる。